

インターバンクの声（2014 年 9 月 24 日）

先週、小休止なしでの 110 円越えは見送った円相場は、月曜日のニューヨーク時間に発表された 8 月の米中古住宅販売件数が 5 年ぶりの減少となった際のドル売りにも 108 円中盤を割り込むことはありませんでした。ところが、東京市場が祝日休場となった昨日は、アジア市場の午後からドルが売られ始め、ロンドン市場が開いた頃に 108 円 26 銭まで下げてしまった際には肝を冷やした御仁も多かったのではないのでしょうか。109 円台でドル買いポジションを作った方々はともかく、今回の 105 円を上抜けてからのドル上昇相場では、ドル買いポジションに向かった方々の多くは 107 円から 108 円前半レベルに集中していたようです。その意味でもこの 108 円前中盤のレベルを容易に下抜けてしまうかどうかは、我慢すべきか諦めるべきかの瀬戸際だったわけです。その後、ニューヨーク勢が参入し出した頃から一転してドル買戻しの動きとなりましたが、上値は 109 円で止められました。ドルの上値が重くなっていると捉えるべきか、ドル買い局面が続いていると信ずるべきか、週末に向けての判断が難しくなってきました。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。